

現代カナダの代表的作家

マーガレット・アトウッド

小説 *Edible Woman* や詩集 *Circle Game*、あるいは文学評論 *Survival* など世界に多くの読者をもつマーガレット・アトウッドが、マスコミに対してインタビュー一切お断り宣言を出したのは、*Life Before Man* を発表してすぐ

のことだった。

孤高を好むアトウッドに対して、冷淡な女、ユーモアのない怒りっぽい人、と批判する者や、その作品の基調にある非ロマンティズム、フェミニズム(女権拡張主義)、カナダ人⇨精神分裂症という観念、あるいはあくまでもカナダ的な

ものに固執するナショナリズム——といった面に対して、敵意ある中傷さえ書く批評家もあった。

だが逆に、こうした思想を、豊かな言語感覚と現実への鋭い洞察力に支えられて作品化したからこそ、アトウッドは高い評価を得た、ともいえるのである。

アトウッドは、一九三九年、オンタリオ州オタワで生まれた。昆虫学者の父は、

研究のため、彼女がまだ赤ん坊の頃、家族を連れてケベック州北部の未開地に移り住んだ。そして、森を切り開いて小屋を建て、子供たちに荒々しい自然を愛し、そこで生き延びる知恵を授けた。同時に両親は、きわめて知的な環境も与えたという。

アトウッドは、長じてトロント大学に進み、ノースロップ・フライの下で英文学を専攻。さらにハーバード大学で研究を続ける。詩は早くから書いていたが、この頃から作家を志望する。当時、カナダ人が世界的な作家の仲間入りをするには非常に難しいという、一般的感覚が支配的だった。「私は確かに正気を逸していたのかもしれない」と彼女は回顧する。処女詩集は大学卒業の年にすでに出していたが、一九六六年、二十七歳のとき出した二番目の詩集 *Circle Game* がカナダ総督賞を受けた。そして二年間の出版社勤務の後に、初めて書いた小説 *Edible Woman* (一九六九年)で、彼女は作家としての地位を確立する。

アトウッドは、詩は言葉と自分との関係を映し出すもの、小説は自分の世界観を表現するもの、と語る。アムネスティ・インタナショナルの会員でもある彼女は、オリの軍事政権の暴虐を詩で再現し、あるいは女性のありふれた受難“レイプ”を詩で糾弾する。「この世がある限り、

作家はそれを証言するほかない。人間的なものは何ひとつ拒否できないのです。」

彼女の提示する世界像があまりにも残酷だという批評に対して、マーガレットは次の詩をもって答える。

「目をあけてこの世を見るとき／目は涙のプリズム／ならばなぜ／私の目が間違っているというのか」

マスコミきらいの彼女も、女権拡張運動や作家の世界では熱心な活動を行っている。取材源の秘密を守る法廷闘争をたかつかっている作家を支援したり、カナダ作家同盟の副議長として、不運な作家、埋もれた新人への援助などに心をくんでいる。

アトウッドは、家庭のことをほとんど語らない。だが、同じ作家で夫(といっても法的に結婚しているわけではない)のグレイム・ギブソンが、彼女の精神的



マーガレット・アトウッド

バランスに大きな役割を果たしているのは事実のようだ。また六歳の愛娘ジェシーの存在は、「私の視野を、世界を広げてくれた」という。短編 *Giving Birth* の中で、出産を終えた母親が外界のもの一切をいとおしく感ずる場面が描かれる。

娘に与える詩、

“How can I teach her / some way of

being human / that won't destroy her?
...も素晴らしい。

Life Before Man (七九年)は、大きな貴否両論を巻き起こした。一人の男と二人の女が織りなす情緒障害と性的混乱と別離と離婚の世界は、まさに“現代”を描いた小説と評されている。アトウッドはしかし、ペシミストといわれるのを嫌う。「私は作品の中で希望を与えていませんが、それは二十世紀の作家なら当面のことです。……でも私は、人類が明日は今日よりもうまくやれるようになると思っています。そう信じなければ、社会改革も政治活動も一切信じられなくなるでしょう。書く行為自体、希望の行為であり、信念の行為ですから。」

八一年十月に出た小説 *Bodily Heart* は、カナダとアメリカの批評界から絶讃され、ベストセラーとなった。

既刊作品／詩集＝ *Double Persephone* (1961), *The Circle Game* (1966), *Animals in That Country* (1968), *Producers for Underground* (1970), *Journals of Susanna Moodie* (1970), *Power Politics* (1971), *You Are Happy* (1974), *Selected Poems* (1976), *Two-Headed Poems* (1978), *True Stories* (1981)

小説＝ *The Edible Woman* (1969), *Surfacing* (1972), *Lady Oracle* (1976), *Life Before Man* (1979), *Bodily Heart* (1981)

短編集＝ *Dancing Girls* (1977)

評論＝ *Survival: A Thematic Guide to Canadian Literature* (1972)